

美唄市一般廃棄物処理基本計画（素案）に対する意見と市の考え方

区分	意見の要旨	市の考え方
第4章 ごみ処理基本計画全体	<p>「一般廃棄物処理基本計画」策定の経過からいって、中間処理施設の設置は必要です。しかし、膨大な財源を必要とするので、この計画が終了後の廃棄物の処理計画については、全部埋立てか中間処理施設を設置するかについて検討すべきです。</p>	<p>ご意見のとおりですので、検討していきます。</p>
第4章 ごみの排出抑制・減量化	<p>ごみの排出抑制・資源化に関して多面的な施策が提示されています。これらが徹底される必要がありますが、その眼目は市民がこれらの意義・必要性を自覚して積極的に取り組むことです。文書での周知に止まらず、町内会や関係機関との懇談会を実施するなど本腰を入れた周知・啓発が必要です。</p>	<p>ごみの減量化につきましては、市民の皆様のご協力が不可欠であることから、地域へ出向き出前講座などで周知・啓発に取り組みます。</p>
第4章 生ごみの堆肥化減量化	<p>生ごみ堆肥化・減量化の促進では、堆肥化容器や電動生ごみ処理機の助成制度などの導入を検討することになっています。この分野はごみの減量化と資源化が大幅に見込まれますので、市が重点的に取り組まなければならない課題です。</p>	<p>生ごみ堆肥化・減量化の促進は、重点的に取り組むべき課題と考えており、啓発活動や出前講座などにより、市民の皆さんとともに実践的な取り組みを進めます。</p>

<p>収集運搬・中間処理・最終処分 第4章ごみ処理基本計画</p>	<p>中間処理施設として、「高温高圧リサイクルシステム」が提示されています。このシステムは、230度・30気圧の飽和蒸気圧で廃棄物を分解処理する、これまでにない加圧加水方式で、燃焼工程がないためダイオキシンなどの有害物質で空気を汚さず、環境によい処理方法だとされています。また、無臭・無菌の生成物だから、生成物に加える素材や加工方法によって様々なリサイクル製品が生まれ、製品化や原料の販売によって採算性を高めることができます。説明の限りでは、中間処理施設として「高温高圧リサイクルシステム」が適当と思われますが、このシステムのことがよく分かりません。ごみをどのように処理していくのか、その能力、耐用年数、建設・維持経費、市民の負担などが詳しく説明されるべきです。単に試算ということではなく、実際に稼働している施設をもとに実証的に検証し、その結果が提示されるべきです。</p>	<p>いただいたご意見を参考に中間処理施設の処理方法について、この計画（素案）に掲載した5つの処理方式を基本とし、近隣市町の動向を踏まえながら、本市に最適な方法について検討を続けます。その上で平成23年度中に結論を出し、計画（素案）の記述内容について、修正を行います。</p>
<p>中間処理施設 第4章ごみ処理基本計画</p>	<p>高温高圧システムで「ゴミの燃料化」は大変結構なことと思いますが、白老町を参考にしているのでしょうか？もしそうであれば、処理後の残渣、塩素分が多く含まれているため脱塩素処理に多額の費用が必要との事です。リサイクルは、ごみの種類によっては燃料化も大変良いと思います。また、燃料化のほか下水汚泥・家庭ごみなどの種類によっては燃料としてよりも肥料・飼料の方が良いとおもいます。肥料は既存のコンポストと比較しても非常に優れた結果が出ています。（肥料は農家へ売却）リサイクル化ごみを分別して高温高圧処理することが大変良い方法と思います。</p>	<p>いただいたご意見を参考に中間処理施設の処理方法について、この計画（素案）に掲載した5つの処理方式を基本とし、近隣市町の動向を踏まえながら、本市に最適な方法について検討を続けます。その上で平成23年度中に結論を出し、計画（素案）の記述内容について、修正を行います。</p>

<p>第4章「ごみ処理基本計画」 中間処理計画・中間処理施設</p>	<p>高温高圧処理で燃えるごみを燃料化する計画は、白老町方式ですが、生ごみ由来の塩素分の問題で、白老町は現在、立ち往生しているのは、ご存知でしょうか。塩素を多く含む燃料のため、燃料購入企業の受取拒否で、塩素分除去に多額の追加費用をかけ、工場改造中との情報です。生ごみを燃料化することは、無理との認識は全国的趨勢と聞いております。去る12月4日、北大での廃棄物資源循環学会で、高温高圧処理により下水道汚泥、家庭生ごみ等を、短時間にアミノ酸が豊富な肥料へ転換成功も報告されました。岩見沢市役所においても、この高温高圧処理による肥料化について説明会が開催されたとのこともお話も聞いています。家庭の生ごみは、燃料よりは堆肥・飼料の方が好いわけですし肥料は地元農家に格安で提供すればいいかと思いません。燃えるごみのうち、生ごみ等のバイオマスは肥料に、紙屑、プラスチックは燃料に、それぞれ高温高圧処理で資源化するべきで、一括処理は止めるべきです。資源化は、原則通り分別して、それぞれの性質にあった資源化をすべきです。お金がかかるから、分別収集はしない！は、3R等環境問題の本質に反します。岩見沢市同様、高温高圧処理による肥料化も学習し、市民に公開して下さい。</p>	<p>いただいたご意見を参考に中間処理施設の処理方法について、この計画（素案）に掲載した5つの処理方式を基本とし、近隣市町の動向を踏まえながら、本市に最適な方法について検討を続けます。その上で平成23年度中に結論を出し、計画（素案）の記述内容について、修正を行います。</p>
<p>中間処理施設 第4章「ごみ処理基本計画」</p>	<p>一般廃棄物基本計画（概要版）の図7での費用比較は解りますが、建設費、維持管理費の内訳がみえないので今後の維持費がどれくらいの費用となるかが不透明です。また、20年間で比較していますが、それ以上になるとどうなるのでしょうか？実際の運用期間による比較算出も気になるところです。</p>	<p>中間処理施設の費用比較では、建設費、維持管理費、ごみの収集運搬費などを試算し、それらの総額で検討し、一般廃棄物基本計画（概要版）の図7に示したところです。20年間で検討しているのは、中間処理施設の使用年数を考慮したもので、それ以降につきましては、新たな施設の更新などが考えられますので、改めて検討が必要と考えています。</p>